

各 位

上場会社名	株式会社 オービス
代表者	代表取締役社長 御輿 岩男
(コード番号)	7827)
問合せ先責任者	取締役経理部長 中奥 淳史
(TEL)	084-934-2621)

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年5月21日に公表した業績予想及び平成21年12月14日に公表した配当予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成22年10月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年11月1日～平成22年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,375	△381	△504	△508	△293.82
今回発表予想(B)	9,178	△521	△635	△651	△376.37
増減額(B-A)	△1,196	△139	△131	△142	
増減率(%)	△11.5	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年10月期)	8,092	△1,152	△1,295	△1,528	△882.77

平成22年10月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年11月1日～平成22年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,445	△504	△567	△569	△329.12
今回発表予想(B)	8,281	△641	△696	△700	△404.60
増減額(B-A)	△1,164	△136	△128	△130	
増減率(%)	△12.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年10月期)	7,137	△1,252	△1,308	△1,463	△854.13

修正の理由

通期の連結売上高につきましては、2010年4月以降、木材事業において、欧州の金融不安の再燃、米国経済の先行き不安、中国経済の過熱の抑制等により、梱包用材マーケットが落ち込みを見せ始めたことに加え、2010年2月のチリ大地震で打撃を受けた競合のチリ輸入製材品が7月の輸入再開を見越して、6月に極端に安値販売されたために市場が混乱したこと等により、当社の下半期の出荷量が前回予想値の76.3%に落ち込むことが見込まれることとなり、製品の販売単価においても、安値販売に対抗した極端な値下げは行わず、販売単価を維持することに努めたことにより、下半期の前回予想値の97.2%にとどまる見込みとなりました。これにより木材事業の売上高は、前回予想値の85.5%(992百万円の減少)と下回る見込みとなりました。

ハウス事業の売上高におきましては、建設業界の受注環境が依然として厳しい状況で推移する中、数少ない商談案件の中で、数件の中型案件を獲得し、プレハブハウスの売上高は前回予想値より53百万円増加する見込みとなりましたが、太陽光発電パネルの設置・販売事業の競争が激化しており、商談案件の取り込みが遅れる等の理由により売上高が前回予想値より204百万円減少する見込みとなったため、ハウス事業全体の売上高は前回予想値の93.9%(151百万円の減少)となる見込みとなりました。

アミューズメント事業、不動産事業においても前回予想値に届かず、両事業をあわせた売上高は、前回予想値の95.1%(53百万円の減少)となる見込みとなりました。

以上により、連結売上高は前回予想値の88.5%(1,196百万円の減少)となる見込みとなりました。

連結営業損失につきましては、木材事業において、これまで製造コスト削減のため、姫路工場の稼働率を高めることを主眼として取り組んでまいりましたが、下半期の受注の落ち込みにより方針を転換し、生産の調整を行ったため下半期の原木消化量は前回予想値の83.2%となり、これにより製造経費単価は122.3%に上昇する見込みとなりました。一方で為替円高の影響により、下半期の原木単価は前回予想値の95.0%となる見込みとなりました。これら製造コストの上昇による原価のプラス要因と、原木消化量の減少や原木単価予想値の下落等によるマイナス要因により、売上原価は前回予想値の88.2%(731百万円の減少)となる見込みとなりました。また、出荷量の減少にともなう製品の運賃の減少により、販売費及び一般管理費は、前回予想値の88.2%(104百万円の減少)となる見込みとなりました。これらにより木材事業の営業損失は、

前回予想値に比べ156百万円増加する見込みとなりました。

ハウス事業につきましては、獲得した中型物件の原価管理を厳しく行ったこと及び太陽光発電パネルの設置・販売案件が少ないながらも利益率が高かったこと等により売上総利益率が上昇し、売上総利益は前回予想値の100.9%(2百万円の増加)となる見込みとなりました。また、人件費等経費の削減を行ったことにより販売費及び一般管理費は、前回予想値の96.2%(13百万円の減少)となる見込みとなりました。これらによりハウス事業の営業損失は、前回予想値と比べ16百万円減少する見込みとなりました。

アミューズメント事業及び不動産事業の営業利益におきましては、アルバイトの人件費等の細かな管理を行い、コスト削減に努めたことにより、両事業をあわせた営業利益は前回予想値の15百万円の減少にとどまる見込みとなりました。

さらに、役員報酬・賞与等人件費の抑制を図ることで管理部門の販売費及び一般管理費が、前回予想値の93.9%(12百万円の減少)となる見込みとなりました。

これらにより連結営業損失は、前回予想値に比べ139百万円の増加となる見込みとなりました。

連結経常損失につきましては、消費税等の還付金等により営業外収益が前回予想値より10百万円増加し、固定資産除却損等により営業外費用が前回予想値より2百万円増加する見込みとなったことにより、前回予想値に比べ131百万円の増加となりました。

連結当期純損失につきましては、機械売却代金等により特別利益が前回予想値より2百万円増加し、アミューズメント事業の不採算店舗の減損損失により特別損失が前回予想値より9百万円増加したこと等により、前回予想値に比べ142百万円増加いたしました。

第3四半期以降の平均為替レートは1ドル89円を見込んでおります。

なお、通期個別業績の修正理由につきましては、上記のアミューズメント事業を除き同様であります。

● 配当予想の修正について

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想 (平成21年12月14日発表)	—	0.00	—	30.00	30.00
今回修正予想	—	0.00	—	10.00	10.00
当期実績	—	0.00	—		
前期(平成21年10月期)実績	—	0.00	—	30.00	30.00

修正の理由

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置づけており、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的な配当の維持を基本方針としております。

しかしながら業績予想の修正理由に記載のとおり、平成22年10月期通期業績の前回予想を下方修正いたしましたので、期末配当予想につきましても、誠に遺憾ながら、これを30円から20円減配し、年間配当を10円に修正させていただきます。

当社といたしましては、引き続き株主価値の向上を目指し、業績回復で早期の増配を目指してまいります。

以 上